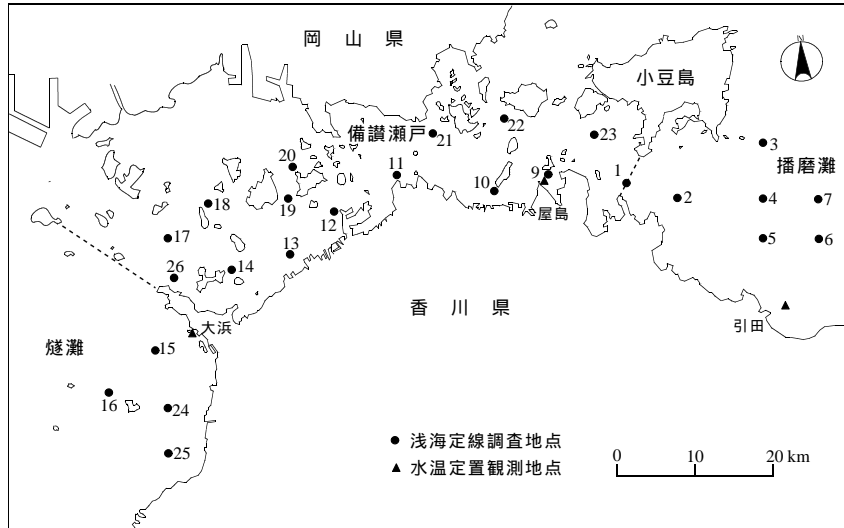


香川県漁海況速報 平成19年 4月 (H19-1号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成19年4月5日 (播磨灘) 3日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めから著しく高め」、塩分は「平年並み」、透明度は「やや高めから著しく高め」、溶存酸素は「かなり低めから平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	11.4	11.3	11.3	32.5	32.5	32.6	14.3	5.82	5.75
	平年値	10.5	10.1	9.8	32.4	32.5	32.6	8.6	6.45	6.17
	平年偏差	0.9	1.2	1.5	0.0	0.0	0.0	5.7	-0.63	-0.42
	状況	やや高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み	著しく高め	著しく低め	かなり低め
備讃瀬戸	14地点平均値	12.1	12.0	12.0	32.8	32.8	32.8	6.9	5.63	5.61
	平年値	10.6	10.5	10.5	32.6	32.7	32.7	5.6	6.21	6.18
	平年偏差	1.5	1.6	1.5	0.2	0.2	0.2	1.3	-0.58	-0.57
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	著しく低め	著しく低め
燧灘	4地点平均値	12.7	12.4	11.5	33.0	33.0	33.1	11.9	5.57	5.36
	平年値	11.7	10.7	10.5	32.9	33.1	33.1	8.4	6.29	5.94
	平年偏差	1.0	1.7	1.1	0.1	0.0	-0.1	3.5	-0.72	-0.58
	状況	やや高め	著しく高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み	かなり高め	著しく低め	かなり低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

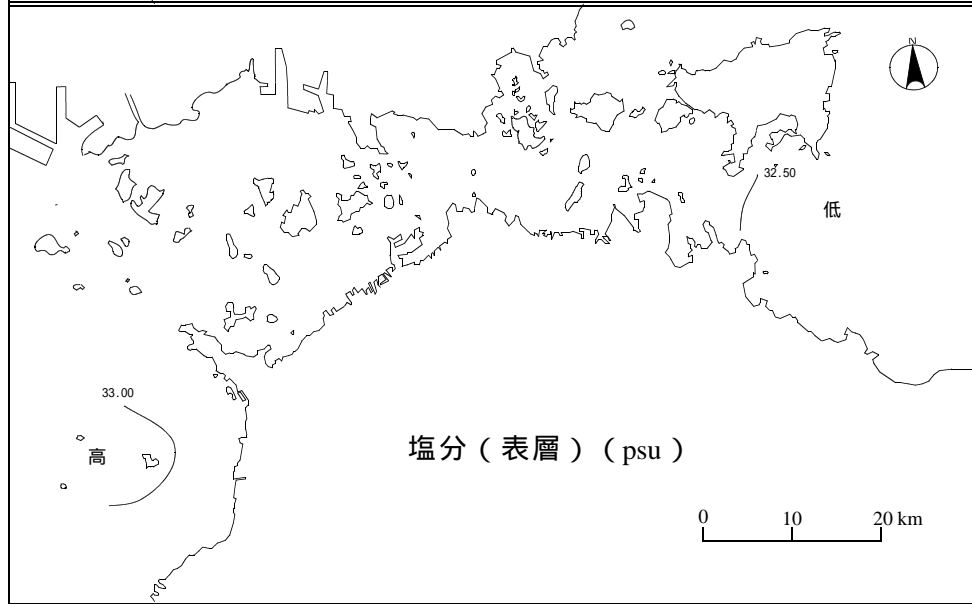
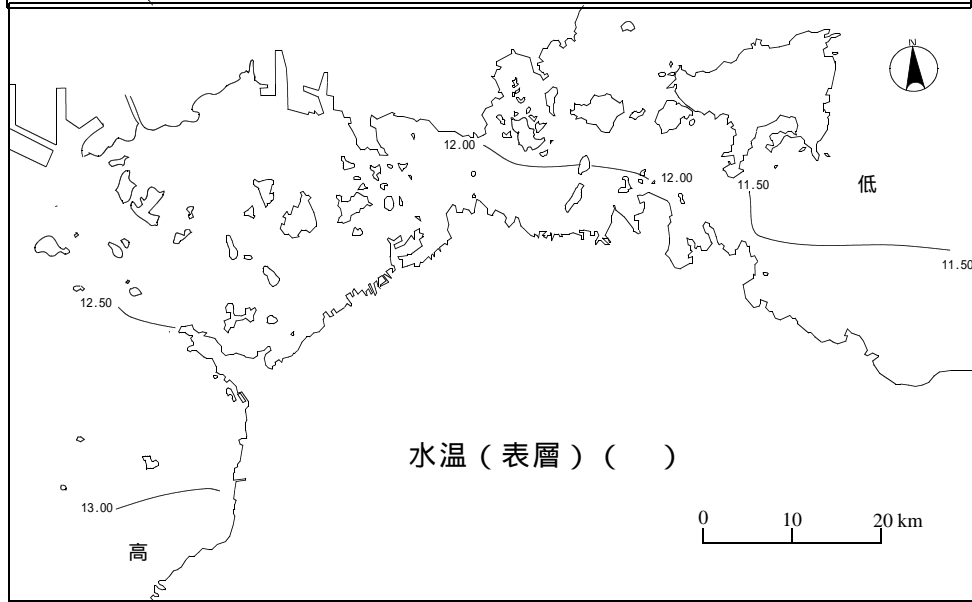
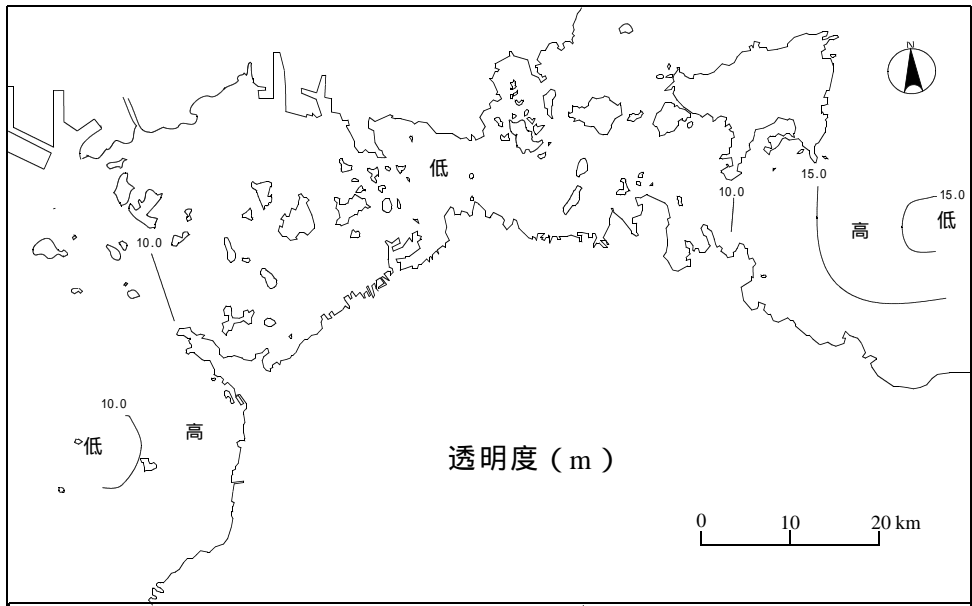
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



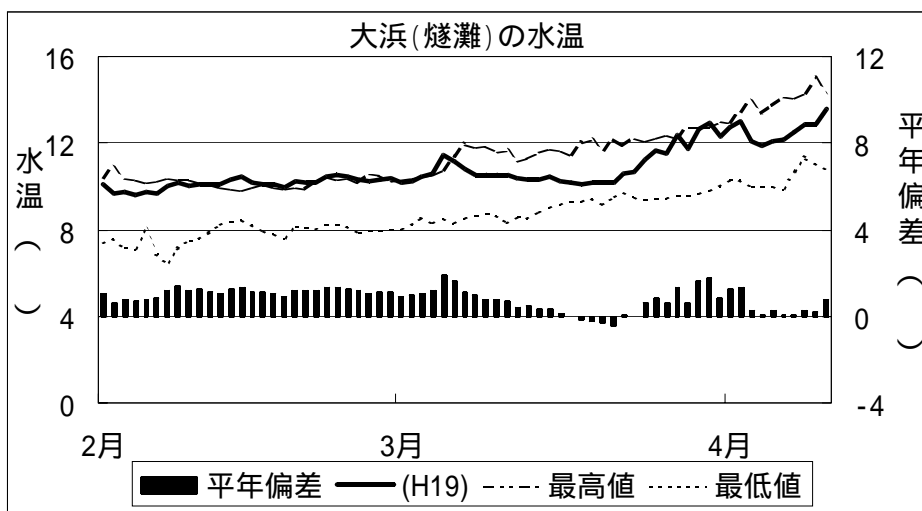
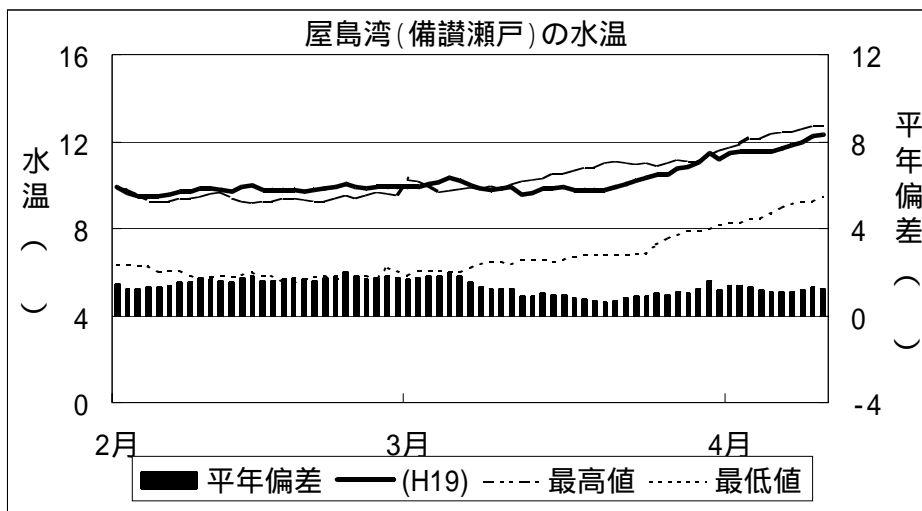
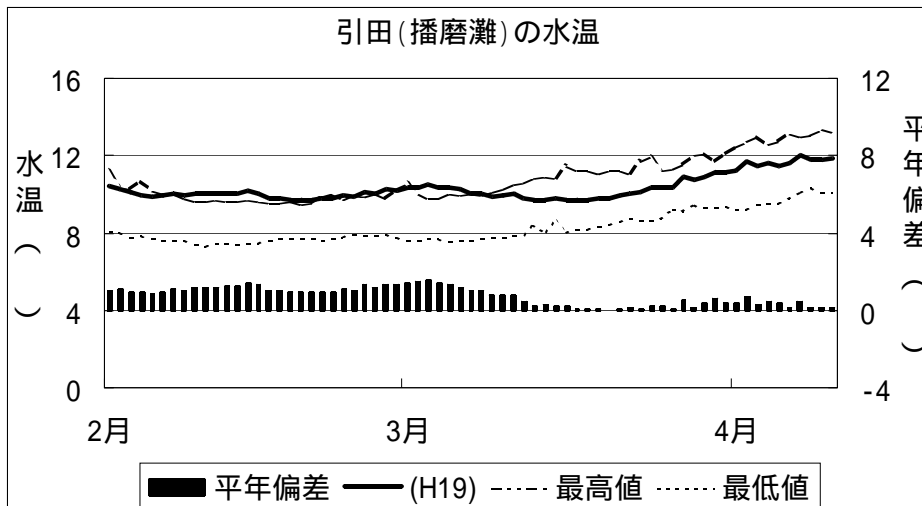
3) 定量観測(水温)

播磨灘(引田): 3月上旬までは、過去最高値並み(平年値より1.0~1.6 程度高め)で推移、3月中旬以降はほぼ平年並みで推移している。

備讃瀬戸(屋島): 3月以降も引き続き、過去最高値並み(平年値より1.0~2.0 程度高め)で推移している。

燧灘(大浜): 3月上旬、下旬は、過去最高値並み(平年値より1.0~1.9 程度高め)、3月中旬、4月上旬は平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成18(2006)年
屋島: 昭和50(1975)~平成18(2006)年



4) 赤潮

播磨灘：発生なし。
 備讃瀬戸：発生なし。
 燧灘：発生なし。

5) 卵稚仔

調査日：平成19年4月5日（播磨灘）、3日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		イカナゴ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.73	0.47
燧灘平均	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
総平均	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.37	0.23

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	-	-	0.0%	0.0%
備讃瀬戸平均	-	-	0.0%	0.0%
燧灘平均	358.3%	-	0.0%	0.0%
総平均	433.3%	-	0.0%	0.0%

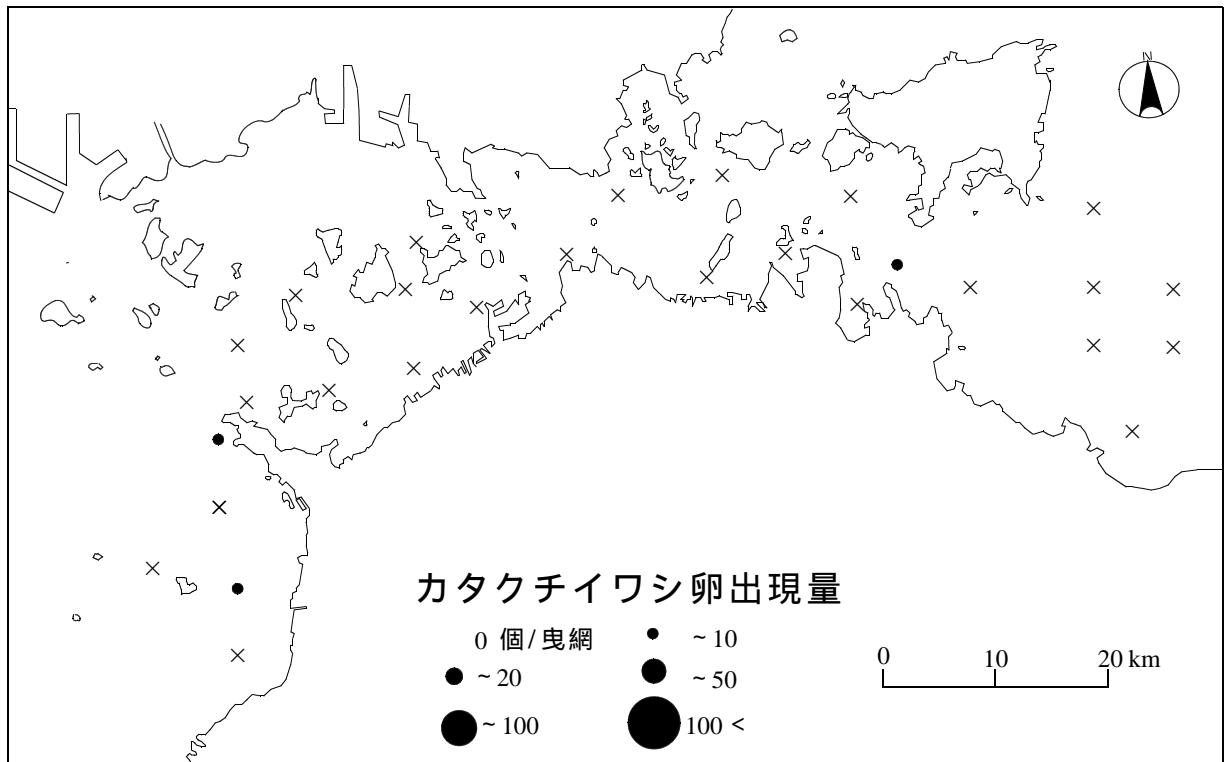
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成18（2006）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成18（2006）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

3月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、ヒラメ、マコガレイが漁獲されているが、全般的に低調である。 桁網では、主にボラ、スズキ、クロダイ、ヒラメ、マダイ、コウイカ類が漁獲されている。 サワラ流し刺し網は4月20日から操業が開始される。
備 讃 瀬 戸	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、イイダコ、テナガダコ、マアナゴが漁獲されている。 高松・庵治沖のイカナゴ込網の3月までの漁獲量は、1,045トで、前年の48%と大幅に下回った。 中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業は4月16日で漁期を終了した。漁獲量はほぼ前年並みであった。
燧 灘	底びき網では、主にウシノシタ類、クロダイ、マコガレイ、マダイを漁獲している。 桁網は3月15日から漁期が始まり、主にマダイ、ウマヅラハギ、スズキ、ヒラメ、コウイカ類が漁獲されているが、全般的に低調である。 さより機船船びき網は4月10日から漁期が始まり、漁獲の主体は大型魚で漁期当初の漁獲量は前年をやや下回って低調である。